

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2691600106		
法人名	医療法人亀岡病院		
事業所名	医療法人亀岡病院けやきグループホーム		
所在地	京都府亀岡市追分町八ノ坪43-8		
自己評価作成日	平成30年2月1日	評価結果市町村受理日	平成31年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2691600106-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">www.kajokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2691600106-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83番地1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	平成31年2月28日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

法人の理念である「高い技術と温かい心を持って、医療・介護の提供し、地域社会の発展に貢献します」に基づき「一人一人の生活を尊重し、いつまでも心豊かな暮らしが行えるよう介護・医療を提供することを目標にしています。

事業所に看護職員を配置し、運営法人である亀岡病院と密な連携により、日常の体調管理、急変時の迅速な対応が可能になっています。入院になったときも退院調整が円滑にできるので、入院期間も短く、退院後も安心してグループホームで暮らして頂けます。

認知症介護人選考研修を常勤職員は終了しており、職員間で個別のケアについて話し合うことも多く、専門的な認知症ケアの実践に努力しております。今後も「個別の認知症ケア」について深めていきます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

山陰線亀岡駅から徒歩約8分、医療法人亀岡病院が運営する「介護複合施設けやき」があります。1階はデイサービス、3階はショートステイセンター、2階はグループホーム(平成27年開設)を併設し協働して運営されています。亀岡病院の5人の医師により月2回の訪問診療を受けて、入居者の健康管理が行われています。グループホームには看護師の配置もあり、急変時の迅速な対応や入院などの医療連携が可能であり、本人や家族にとって大きな安心となっています。昨年より同病院の理学療法士が入居者一人ひとりの生活機能評価表を作成して、それぞれのポジショニングや日常生活の中での運動指導(手を伸ばして物を取る、目的地には回って多めに歩く、ボールを投げる捨てるなど)のアプローチを行い、3か月ごとに評価して機能低下を抑える取り組みを行っています。入居者は、職員の働きかけにより楽しみながら身体的な機能維持に挑戦されています。徐々にやる気も芽生え、認知機能の低下をも抑制し表情が徐々に明るくなって来ています。新たな挑戦に期待を膨らませている事業所です。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に法人理念、事業所理念を掲示し、グループホーム内、他の介護サービス事業所と協同で研修を行い理念の浸透を図っている。	法人の理念「私たちは、高い技術と温かい心をもって、医療・介護を提供し地域社会の発展に貢献します」と、グループホームの理念「一人一人の生活を尊重し、いつまでもこころ豊かな暮らしが行えるよう、介護・医療を提供します」と玄関横に掲示している。年間研修では、倫理、理念を取り入れて職員の理解を深め入居者の思いや意向を受け止めて理念の実践につないでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的にボランティアの受け入れを行っている。住宅地が近くにないため同法人の小規模多機能と連携し、孤立しないように夏祭りなど催しに参加して地域の方と触れ合える機会を作っている。	案内を頂き敬老会への参加と涼やかスポット(50人程度)は、デイサービス利用者や地域住民などが参加しているので、地域の方々と触れ合える機会として入居者は楽しみに参加している。定期的にボランティア(生け花教室、笑いヨガ)を受け入れ、特に笑いヨガは、大声で笑いながらゲームをして楽しむので、入居者や家族からも喜ばれている。亀岡祭りは、鉢の巡行を見に行き知人に出会ったり、雰囲気を楽しみ楽しんでいる。花火大会には、屋上を地域に開放している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会から敬老会の案内をもらうが、参加希望がなく、参加できていないなど地域との結びつきが十分でないことが、課題となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市町村や自治会の方の参加をいただき、気づいていないことを気付かされることが多くあり、事業運営に活かしている。	会議は、家族代表、民生児童委員、自治会相談役、行政、地域包括支援センター、管理者などが参加し、小規模多機能ホームと共同で開催している。利用者状況、行事、研修などを報告している。平成30年9月の豪雨や台風を経験して、入居者の垂直避難や備蓄など非常時の対応が話し合われている。30年末から大流行したインフルエンザなどに対して、職員は徹底した管理を行い持ち込まないよう実施していることを伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、地の担当者が毎回参加して頂き、他の地域密着型サービスの情報をいただき事業運営に参考にさせて頂いている。	市の担当職員には、運営推進会議に出席しているのでグループホームの運営状況を理解して貰っており、他事業所の状況を尋ねたりして相談しやすい関係を築いている。行政主導の地域密着型連絡協議会に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回の施設全体で身体拘束排除に向けた研修会を実施し、事業所内の会議や日常業務の中で身体拘束にならないかの検討が行えるようになり、身体拘束廃止に取り組んでいる。	運営規程や重要事項説明書に身体的拘束等の禁止を明記し、「身体拘束廃止に関する指針」を作成している。高齢者虐待や身体拘束に対して、年間研修計画に組み込み職員の意識を高めて取り組んでいる。会議や日常的にも拘束になる行為か否かを検討しながら、言葉による拘束も含めて話し合えるようになっている。	

京都府 医療法人 亀岡病院 けやきグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修を地域包括支援センターに講師で来てもらっている。身体的な虐待だけでなく、言葉の言葉がないか気を付けながらケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターと連携し、権利擁護事業の情報提供を受けたり、入居者家族から成年後見制度についての相談があれば、包括支援センターにつないだり、入居者家族に成年後見人制度について情報提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の施設見学時に費用等の説明を行い、その時に対象となられる方の状態や状況をお聞きし、ここでのケアについて説明おはなしています。契約を交わす時には契約書に沿って再度説明して契約しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時にお話を聞ける時間を作ってもらって、希望を聞くようにしています。	面会時には、家族との対話の時間を設定し、意見や要望を聞く体制を取っているが、個人的なことが多く適切に対応している。今年度は家族アンケートを実施していない。年1回開催する家族会は、今年度年3月に計画し入居者と家族、職員など楽しい交流の場となるよう期待している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回行っているチーム会議で個別ケアカンファレンスを行っているので、職員の意見を聞くようにしています。要望を取り入れる必要があるときには申し送りの時間を利用するなど職員の意見を聞きながら実現させるようにしている。	職員の意見は、朝の申し送りや月1回行うチーム会議(カンファレンス)で、聞き取るようにしている。日常的な会話からも意見があり積極的に受け止める姿勢を持っている。職員からは、サービス提供上必要とする物品の要求(入浴用チェア)があり、早急に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度は、急な退職者があつたため職員に残業をしてもらうことがあつたが、利用者のことを最優先に考えて積極的に応じてくれた。外部研修などに参加できるように人員の配置や定着のために職場環境の整備が十分でなかった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にはなかなか参加してもらえなかったが、居宅介護事業部での新人研修に実践経験のある職員も参加してもらい、振り返りしてもらった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し、合同運動会、交換研修に積極的に参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、入居後も本人の生活歴やどのような趣味があったのかなどお聞きし、ご本人が望まれる生活とはどのようなものなのかを考えられるようにお話を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の想いを、施設見学時、契約説明時に聞き取り、本人との関係性などに配慮しながら、サービスの説明を行い、入居後の生活のイメージが持ちやすいようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の状況把握を行い、本人が必要なサービスのついて検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自宅での生活と全く同じとはいかないが、本人が持っておられる力を発揮されるように職員が見守りながら、家事なども職員と一緒にしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が会いに来られた折には生活の様子をお伝えし、お部屋でくつろいで過ごしてもらったり、本人との外出を希望されるときは、介助の方法などを伝え出かけてもらえるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人の面会など家族に関係性などを確認し、積極的に受け入れている。また、近隣で行われている祭などに参加している。	デイサービスを利用している友人や入居者の姉が面会に来たこともあるが、家族以外の面会者は少ない。生け花が趣味の入居者は、ボランティアの生け花教室で力量を発揮し楽しみにしている。編ものが趣味の入居者は、小物を編んで継ぎ合わせてオリジナルな大きい作品を作って楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の座席を入居者同士の関係性に配慮しながら、誘導したり、独りになれる場所を作ったりと適切な距離感での関係性が保てるよう援助している。また、ご飯作りなどで入居者同士が協力できる関係を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去に際して、部屋の荷物の片づけなどを家族と行い、必要であれば業者などを事業所から紹介している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の今までの生活歴などを把握したうえで、日常的な会話の中から本人の想いを把握している。	入居前に自宅を訪問し、その人の生活歴や心身の状況、今後の生活の意向などを聞き取り、本人や家族から居宅の担当介護支援専門員からの情報を踏まえてアセスメントしている。その後は、日々の会話や行動、表情、仕草などを注意して見守り、記録してカンファレンスで話し合い、情報を共有して支援につないでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の聞き取りを本人、家族からサービス利用前に行い、必要であれば利用していたサービス事業所へ情報の提供を求めている。入居後もどのような体験をされてきたのか聞く機会を持つようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援記録に、1日の排泄状況、水分・食事摂取量その時々様子などを記録し、それを基にケアカンファレンス等で職員同士で話し合い状況の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員を3チームに分け、各担当入居者を決め、各チームごとのケアカンファレンスでモニタリングを行い介護計画の作成に反映している。また、家族の要望などは計画作成担当者が家族より面会時などに聞き取っている。	職員を3チームに分けて入居者を分担して担当している。看護師も参加して、月1回のチーム会議において各チームごとの担当入居者のカンファレンスを行い、3か月ごとにモニタリングをして介護支援計画に反映させている。面会時に家族の意向を聞き取り介護支援計画に反映させ、現状に即した介護支援計画を作成している。6ヶ月ごとに見直している。入居者の状況変化に応じて、随時モニタリングして現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援記録に日々の様子を記録し、それを基に、チーム会議で個別のケアについて話し合い記録している。		

京都府 医療法人 亀岡病院 けやきグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族状況に合わせて、受診対応や入院中の支援、外出時の援助をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員さんとボランティア活動を通して、地域の方に施設に来てもらえるようにしている。他のサービスと催し物を通して交流を持つようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	亀岡病院の担当医5名より、各入居者が月2回訪問診療を受けており、診療時に事業所看護師が同席し入居者の状態などを主治医に伝えている。また、体調の急変時の受け入れ体制も亀岡病院に確保している。	地元の主要な病院である亀岡病院がかかりつけ医であった入居者も多い。同病院は訪問診療に力を入れている。入居者は、同病院の5名の神経内科医師による訪問診療を月2回受けている。診療時は、管理者と看護師が同行し入居者の状況を伝え、医師の指示を貰っている。入居者の急変時は、亀岡病院における24時間オンコール体制を確保し入居者や家族に安心を提供している。歯科や皮膚科は、必要時に近くの個人医を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護師を週3日配置し、介護職員と協働し入居者のケアを行っている。また、体調不良時には看護師と24時間連絡が取れる体制を確保している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係	入院時には事業所職員が必ず、同行しサマリー、口頭で入居者の情報を伝えている。また入院中も面会に行き安心した環境で治療が行えるよう援助している。また、入院時から主治医等と退院に向け連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における指針」「看取りに関する指針」を整備し、家族に説明している。また、職員へは看取りの研修を年1回実施している。	「けやきグループホームでの重度化した場合における対応に係る指針」「けやきグループホームに於ける看取りに係る指針」を策定している。入居時には、入居者や家族に対して事業所のできる範囲を丁寧に説明し、同意書に署名、捺印を得ている。職員は、終末期・看取りケアを年間研修計画に組み込んで研修している。入居者の状況の変化に伴い何度も医師や家族と話し合い情報を共有して対応し、昨年1例を経験している。遠方の家族の面会時の宿泊や入居者の終末期に備えて家族控室を設置している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内のショートステイが休止になった事で、夜間帯は施設内に介護職員一人になることから、緊急時対応の見直しを行い訓練を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の避難訓練や緊急連絡の訓練を実施している。浸水想定地域にあるため水防計画も策定している。	消防署の立ち合いで火災による避難訓練を入居者と共に実施している。夜間における災害・緊急呼び出し連絡網を作成し、夜間想定の避難訓練時は、連絡網による呼び出し訓練を実施している。事業所は浸水想定地域であり水防計画を策定し、入居者の一時避難場所は3階に垂直移動を考えている。備蓄は、法人が行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に関する研修を年1回実施し、職員のプライバシー保護に対する意識を高めている。	基本方針や事業所の理念に「入居者一人ひとりの人格の尊重」を掲げ、倫理、プライバシー保護、接遇・マナーなどの研修を行って職員の意識を高めている。入居者の誇りや自尊心を傷つけないよう言葉遣いに配慮して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な会話から利用者から思いや希望を伝えてもらえるように接している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	余裕をもった職員を配置し、入居者の望む事の実現にむけ援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1カ月半から2か月おきに訪問理美容を利用し、髪の毛のカットや毛染めなどを本人の希望に添って行っている。また、一緒に衣類を買いに行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は基本的に外注業者が行っているが、職員と一緒に盛り付けなどの食事の準備を行い、月2回はレクリエーションとして食事づくりを行っている。また、月1回は地元の食材を使ったメニューを提供してもらっている。	食事は業者委託している。亀岡病院の管理栄養士による献立には、入居者の嗜好調査からできるだけ好みに合った食事が提供できるよう配慮して貰っている。レクリエーションとして昼食(麺類やお好み焼き)作りを月2回行い、内1回は地産食材メニューを依頼して作っている。入居者は、食事の準備や盛り付けなどを職員と一緒にしている。おやつもどら焼きや誕生会はケーキなどを作って楽しんでいる。レストランなどへの外食も楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理は、法人内の管理栄養士が行い、日常的な水分、食事の摂取量は介護職員が毎日記録し、水分、食事量の把握を行っている。また、入居者の好みに合わせて、補食の提供も行っている。		

京都府 医療法人 亀岡病院 けやきグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、必要時は協力歯科医院への受診援助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日、排泄記録を付け、排泄リズムを把握し、適宜、排泄誘導を行っている。また、本人の状態に合わせてポータブルトイレの設置をしたり、している。	日々の排泄記録から、入居者一人ひとりのリズムを把握し、誘導してトイレでの排泄支援を行っている。部屋の隅で排泄する入居者には、その場所に蓋を開けてポータブルトイレを置くことで排泄ができるようになった。一人ひとりの習慣や特異性などに合わせた個別支援の成功例である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録を付け、運動、水分摂取を儒分 行い便秘予防に努めている。また、主治 医、看護師と相談し、緩下剤の調整やヨー グルトなどの食品提供を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2～3日の入浴を基本とし、本人の状態にあ わせ入浴時間、入浴日の調整を行ってい る。また、好みに合わせて入浴剤の使用等 を行っている。	入居者の状況や希望に合わせて、入浴日や時間の調整を行い、週2～3回の入浴を確保している。好みの入浴剤を使用したり、ゆず湯などの季節湯もゆっくりと楽しんで貰っている。今は、入浴を嫌がる方はない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度、湿度管理を行い安眠できる環 境を整備している。他にも照明、家具の配 置なども安全に配慮しながら本人の希望に 添った環境にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療情報ファイルに、全ての職員がわかる ように、薬の種類、副作用、服用方法などが わかるように記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物のできる方には、編み物をしてもらい 繋ぎ合わせて一枚のひざ掛けを作成中 です。買い物に出かけて自分の欲しい物 を買ってもらっています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のスーパーなどに職員と買い物に出かけたり、施設の屋上で散歩をしたりしている。他にも気候の良い時には、外出レクリエーションとして遠方に出かけている。	入居者は、お天気の良い日は日常的に屋上庭園でプランターの花の水やりや散歩など、季節の花を見ながら日光浴を楽しんでいる。東屋があり日差しを避けて、ゆっくり過ごすこともできる。近隣のスーパーに職員と一緒に買い物に出かけている。外出レクリエーションでは、花見など遠方にも出かけて楽しく過ごして貰えるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的に施設で行っているが、本人の希望したものは、職員と一緒に買い物の際に購入している。また、お金を持っていたいと希望される入居者に対しては、家族の了解の上、管理して頂ける。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人あての手紙、贈り物は全て本人に直接渡し返事やお礼の手紙を書いて出すようにしている。電話に関しては希望があれば取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じる生花を飾り、介護施設によく見られる壁面の装飾はできるだけ控え、落ち着いた環境にしている。また、空気清浄機、加湿器を設置し、心地よい環境の整備に努めている。	広い食堂は、明るくて見晴らしが良くゆっくり過ごせる落ち着いた雰囲気がある。丁度腰掛ができる高さの畳の場所には、お雛様がきれいに飾ってありほっとする暖かさや懐かしさを感じられる。トイレや浴室はきれいに管理されている。水仙などの生花が生けてあり、季節を感じながら穏やかに居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファコーナー、タタミコーナー等を利用し、入居者同士が適切な距離感を持てるよう環境を整備している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にも生花や寄せ植えなどを飾り、季節感のある空間にしている。他にも、自宅から家具などを持ちこみに制限はかけず、使い慣れたものを使って頂いている。	居室には、クローゼットが設置されており、持ち物がきれいにまとめられている。好みの小型の箆笥を持ち込み、その上に家族写真や生け花教室での季節の生花を飾り、縫いぐるみなどを置き自分好みの部屋をアレンジして居心地よく過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	クローゼット、タンスの物がわかるように目印をつけたり、トイレまでの一人で行けるよう道順を示したりと、出来る限り自分一人のできる事を大切に対応している。		